

ChatGPT に聞いてみた 東芝の不正会計、フォルクスワーゲンの排ガス不正

「東芝の不正会計、フォルクスワーゲンの排ガス不正の処分の違いを教えて」

ChatGPT:

東芝の不正会計事件(日本)とフォルクスワーゲンの排ガス不正事件(ドイツ)の処分の違いについて、以下に**処分の内容・対応の違い・背景の比較**を示します。

✅ 1. 東芝の不正会計事件(2015 年発覚)

◎ 事件概要

- 2008 年頃から約 7 年間、不適切な会計処理を続け、利益を水増し(総額:1,500 億円超)。
- 経営幹部が利益至上主義を背景に圧力をかけていたとされる。

◎ 処分内容・結果

区分	内容
制裁金	なし(当初)。その後、証券取引等監視委員会が約 73 億円の課徴金を勧告(ただし民事制裁)
刑事責任	企業・経営陣への刑事訴追なし
社内処分	社長・副社長などが辞任。後継体制へ移行
株主への影響	株価急落、上場維持。株主代表訴訟は一部実施
社会的影響	東芝は原発事業含め経営危機に陥るが破綻せず再建へ

✅ 2. フォルクスワーゲン(VW)の排ガス不正事件(2015 年発覚)

◎ 事件概要

- ディーゼル車の排ガス規制を不正なソフトウェア(ディフィート・デバイス)で回避。
- 約 1,100 万台が世界で影響を受けた。

◎ 処分内容・結果

区分	内容
制裁金	米国政府・顧客への和解金: 300 億ドル超 (約 3.5 兆円) EU や他国でも数千億円規模の賠償
刑事責任	米国で幹部が起訴・有罪判決 (禁錮刑)、逮捕者も発生
社内処分	CEO 辞任、幹部多数が解任・処分
株主への影響	株価大幅下落。株主代表訴訟で数千億円の和解
社会的影響	信頼喪失・企業イメージ大打撃。だがグループとしては継続・再編強化中

✓ 処分の違い (比較表)

項目	東芝 (日本)	VW (欧米中心)
制裁金	約 73 億円 (課徴金のみ)	約 3.5 兆円 (民事 + 刑事和解)
刑事責任	なし	幹部が起訴・有罪
公聴会・議会調査	なし	米議会で公聴会
内部告発者対応	特筆なし	米国では内部告発者保護対象
社会的評価	批判は強かったが継続支援も	グローバルで強い非難と制裁

✓ 背景にある構造的違い

要因	日本 (東芝)	欧米 (VW)
制裁文化	行政処分中心、刑事責任は限定的	法的責任明確化 + 制裁金重視
社会的配慮	企業存続や雇用に配慮	公正と法の執行が最優先
株主重視	緩やか	強力 (株主代表訴訟も活発)

✓ まとめ

- 東芝のケースは「組織ぐるみの虚偽会計」だったにもかかわらず、刑事責任や巨額制裁金には至らず、「再建支援」の色が濃かった。

- 一方、VW のケースでは「意図的な環境詐欺」に対して、米国などが厳格に「法の裁きと金銭制裁」を加え、幹部の逮捕・起訴も実施。

この違いは、日本と欧米の法制度・企業文化・政府の対応姿勢の違いを端的に表しています